

# 東名高速道路における劇物運搬車両火災概要

愛知県岡崎市消防本部

## 1. はじめに

岡崎市内の東名高速道路で、4月1日未明、クロルピクリン含有剤を満載したトラックなどが衝突して炎上、有毒ガスが流出し、後続車両の運転手1名が死亡、付近の公園内の小鳥、魚類に多くの被害が発生した事故で高速道路が16時間余り不通となった。

周辺住民への直接の被害はなかったが、この事故は高速道路を抱える都市の危険な一面に改めて警鐘を鳴らすものである。

## 2 出火場所

東名高速道路上り線(岡崎市欠町字大田地内)



図1 現場案内図

## 3 火災の経過

- |          |                    |
|----------|--------------------|
| (1) 発生日時 | 平成5年4月1日<br>1時34分頃 |
| (2) 覚知   | 1時39分              |
| (3) 現場到着 | 1時53分              |
| (4) 火勢鎮圧 | 2時8分               |
| (5) 鎮火   | 2時16分              |

## 4 気象状況

天気曇り, 風向東, 風速 1.6m/sec  
気温 11.7℃, 湿度 94%

## 5 発生状況

角博幸(23)の運転する大型トラックが東名高速道路下り線を走行中、前輪がパンクし中央分離帯を越えて上り線に突っ込んだため、上り線を走行してきた安岡和浩(29)の運転する普通トラックに接触し、安岡のトラックが横転、後続車両の志田正清(42)の運転する大型トラックがこれに衝突し炎上したものと推定される。

炎上した志田の大型トラックには、劇物であるクロルピクリンが含有された土壤殺菌剤(商品名クロピク 80)204 入りのスチール缶が400缶積載されており、衝突の際落下して破損した缶や、火災により膨張し破裂した缶からクロピク 80 が流出し、催涙性のガスが付近一帯に滞留した。

## 6 覚知及び指令状況

一宮市の日本道路公団名古屋管理局から、「294KP 付近の下り線で交通事故がありトラックが燃えている。」との通報により、化学車はじめ4台を出動させる。さらに、最先着した消防隊からの要請により消防車2台の増援と救急車を出動させるとともに、現場が上り線と判明したため豊田市消防本部への出動要請をする。

## 7 出動車両及び人員

- ・岡崎市消防本部  
消防ポンプ車3台  
大型水そう車1台  
救急車2台  
救助工作車1台  
電源照明車1台  
広報車1台  
計9台  
出動人員35名
- ・豊田市消防本部  
消防ポンプ車2台  
大型水そう車1台  
救急車1台  
救助工作車1台  
広報車等4台  
計9台  
出動人員27名  
合計18台62名

## 8 現場の状況

現場は岡崎インターチェンジから北へ1.3km、東公園内の東名高速道路に架かる男の子橋北付近の

山間地域で、両側が切り通しとなっており比較的小高い場所である。現場到着時の状況は、普通トラックが横転し、これに衝突した大型トラックは車両の前部が原形をとどめない状況で大破しており、2台が黒煙をあげて炎上していた。火勢によりかなりの数のクロビク80のスチール缶が膨張して破裂し、催涙性のガスが目、鼻、のどなどを刺激したので、空気呼吸器を着装して現場活動を実施する。

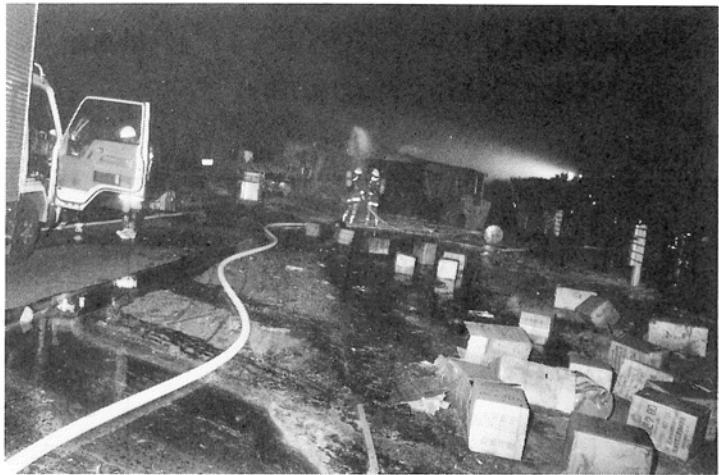


写真1 消火活動状況



写真2 クロビク80積載車の焼き状況(左は横転車両)

## 9 活動状況

### (1) 消火活動

大型トラック等2台が炎上中であり、さらに東名高速道路法面から東側の山林へ延焼する状況にあったので、これを阻止するとともに炎上中の車両に対して噴霧注水及び低発泡放射を行って鎮圧する。

### (2) 救助及び救急活動

現場到着と同時に救助隊が検索、男の子橋付近で安岡、志田の2名を発見、続いて炎上中の車両の北25m付近で倒れていた永石宣邦(26)を発見し、3名を収容して救急車で市立岡崎病院へ搬送する。

さらに現場周辺を検索中、火点の北150m

付近で負傷している角を発見したので第2次救急隊を要請、収容して市立岡崎病院へ搬送する。

なお、永石は同日14時3分肺水腫により収容先の病院で死亡した。

## 10 出火原因

衝突の火花(推定)

## 11 焼損物品及び損害額

トラック2台及び積載物品9,354千円

## 12 死傷者

安岡 和浩 重傷(交通事故)

志田 正清 重傷(交通事故)

永石 宣邦 死亡(漏洩ガス吸入)

角博 幸 軽傷(漏洩ガス吸入)

## 13 クロピク 80 の性状

クロピク 80 は、クロロピクリン80%、有機溶剤20%の医薬用外劇物で、土壤殺菌用の農薬として使用される。無色ないし淡黄色の透明の液体で容易にガス化し、そのガスは強い催涙性、粘膜刺激性がある。ガスを多量に吸入すると呼吸困難を起し死亡することがある。

## 14 発生した有毒ガスへの対応

(1) 消防隊員は空気呼吸器を装着した。

(2) 関係者及び付近住民等については、車載拡声器を使用して現場から離れるよう指示した。

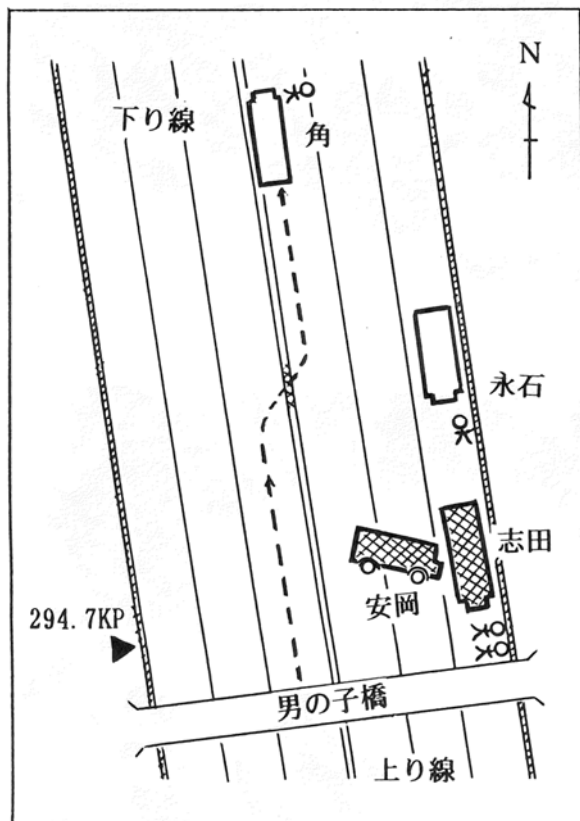


図2 事故車両配置図

(3) 付近へのガス拡散状況調査のため、東名高速道路沿線を巡回した。

### 15 関係機関への連絡

流失拡散の防止対策、付近河川等の水質検査、現場周辺の公害に係る調査、薬剤の中和処理及び現場周辺の広報巡回等について次の機関へ連絡した。

- ・ 日本道路公団
- ・ 岡崎市水道局

- ・ 岡崎市環境衛生部
- ・ 岡崎市開発部
- ・ 岡崎保健所
- ・ 岡崎警察署
- ・ N化学工業㈱(クロピク 80 製造元)

### 16 まとめ

今回の車両火災においては、有毒ガスが漂う現場で消防隊員が容器ラベルから品名を確認しているが、判明するまでにかなり

の時間を要し、極度の緊張と不安の中での消火活動は困難を極めた。また、中和剤等の到着が遅れ事後処理に長時間を要した。

このような状況を踏まえ、今後同種の災害に対し迅速かつ的確に対処できるよう、愛知県下高速道路消防連絡協議会では、現在、外部関係機関、製造会社及び運輸会社等へ対する要望事項についての検討を進めている。



写真3 焼損した2台のトラック

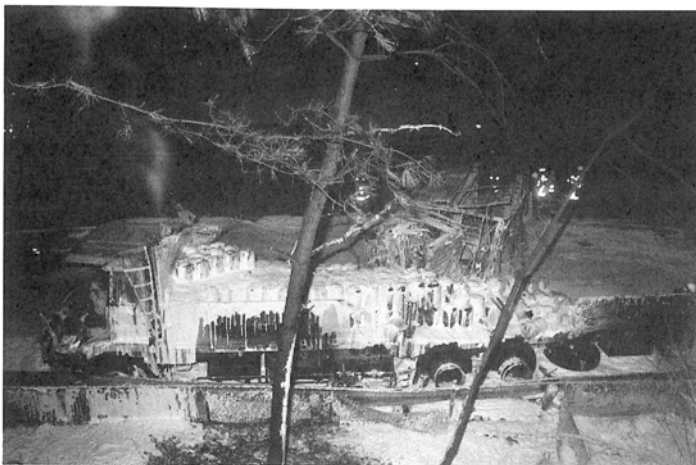


写真4 クロピク 80 積載車の焼き状況